

## 令和 5 年度に実施した研究課題評価の結果について

## 1 中間評価について

## (1) 評価対象

評価実施年度（R 5）に予算計上している継続研究課題。  
ただし、研究開始年度及び終了年度にあるものは除く。

## (2) 評価の目的

これまでの進捗状況や目標達成可能性、研究を取り巻く状況の変化等の観点から、引き続き研究を続けることの適否を判断するための有用な情報を提供する。

## (3) 評価方法

## ① 内部評価委員会による評価を実施。

研究開始から奇数年度はヒアリング形式、偶数年度は書面形式により行う。

## ② 評価の観点及び評価項目

評価の観点	評価項目	評価内容
必要性	ニーズの状況変化 (a、b、c)	政策の転換や産業界・県民生活におけるニーズの変化等、研究を取り巻く状況の変化をみる。
有効性	研究開発効果 (a、b、c)	最終目標に到達した場合に、研究の成果が本県産業の振興や県民生活の向上に十分に貢献できるかをみる。
目標達成可能性	進捗状況及び目標達成阻害要因の状況 (a、b、c)	研究課題設定時の研究計画及び計画の修正記録等を基に評価時までの進捗状況を、技術水準、これまでの研究成果、他の研究主体の動向、研究資源、新たな課題の発生等の状況を基に目標達成を阻害する要因の状況をみる。
総合評価 (A、B、C、D)		次年度以降引き続き実施すべきか、また実施する場合の優先度を判断する。

## (4) 総合評価の結果

評価結果	判定基準（項目評価の合計点）	課題数
A	9～8点	10 議題
B	7～6点	12 課題
C	5～4点	該当なし
D	3点	該当なし
合計		22 課題

## (5) 評価結果一覧(中間評価)

評価基準日 令和5年4月1日

No	研究機関名	課題名	事業年度	ヒアリング実施	ニーズの状況変化	効果	進捗状況・目標達成阻害要因	総合評価	資料
1	総合食品研究センター	生産地加工における農林水産物の高付加価値化	R4 ~ R6		a	b	b	B	資料5
2	総合食品研究センター	新規麹菌を用いた新たな秋田オリジナル甘酒の開発	R4 ~ R6		b	b	b	B	資料5
3	総合食品研究センター	新しい生活様式に対応した低アルコール及び複合型アルコール飲料の開発	R4 ~ R6		a	a	a	A	資料5
4	総合食品研究センター	ライフステージに応じた機能性食品の開発	R4 ~ R6		b	a	a	A	資料5
5	農業試験場	花きの市場競争力強化を目指した新栽培技術の開発	R2 ~ R6	○	b	b	b	B	資料5
6	農業試験場	野菜オリジナル品種の育成と親系統等の増殖	R2 ~ R6		b	b	b	B	資料5
7	農業試験場	実需に応じた秋田米生産を支える病害虫防除技術の確立	R3 ~ R7	○	a	b	b	B	資料5
8	農業試験場	新規就農者の現状と課題及び中等教育以前のキャリア教育実態の把握	R4 ~ R6		b	b	b	B	資料5
9	農業試験場	大規模水田作におけるスマート農業技術を活用した労働および土地生産性向上技術の確立	R4 ~ R8		a	b	b	B	資料5
10	農業試験場	高密度播種苗による良食味米品種の省力安定生産技術の確立	R4 ~ R8		a	b	b	B	資料5
11	農業試験場	水稲作における新たなケイ酸・カリ供給量の推定方法の開発と施用基準の策定	R4 ~ R6		a	b	b	B	資料5
12	果樹試験場	果樹産地再生の基盤となる新品種の育成と選抜	H28 ~ R7	○	a	a	b	A	資料5
13	果樹試験場	多雪地帯におけるリンゴジョイント栽培の生産性および耐雪性評価	R2 ~ R6		a	b	b	B	資料5
14	果樹試験場	園地更新や新規参入を促す新たな果樹栽培技術に適応する品種の選抜	R3 ~ R12	○	a	a	b	A	資料5
15	果樹試験場	リンゴの土着天敵フル活用のための持続可能な環境負荷低減防除体系の構築	R4 ~ R8		a	a	b	A	資料5
16	畜産試験場	比内地鶏の肉質及びおいしさの日齢変化に関する研究	R3 ~ R6	○	a	a	b	A	資料5
17	畜産試験場	稲わらの調製方法の違いが肥育牛に与える影響の検討	R3 ~ R7	○	a	a	b	A	資料5
18	水産振興センター	種苗生産・放流技術の高度化に関する研究	R2 ~ R6		b	a	b	B	資料5
19	水産振興センター	磯根資源の管理と蓄養技術の開発	R4 ~ R8		a	a	b	A	資料5
20	林業研究研修センター	秋田スギの低密度植栽に対応した新施業体系の確立	R2 ~ R6		a	a	b	A	資料5
21	林業研究研修センター	低コスト造林を実現する秋田スギの開発	R3 ~ R7	○	a	a	b	A	資料5
22	林業研究研修センター	多様な樹種構成による秋田の海岸防災林造成技術の開発	R4 ~ R8		a	b	b	B	資料5

## 2 事後評価について

### (1) 評価対象

評価実施年度の前年度（R 4）に研究期間が終了した研究課題。

### (2) 評価の目的

最終到達目標の達成度、研究成果の効果の観点から研究結果を評価し、次期研究計画の策定等に活用する。

### (3) 評価方法

#### ① 内部評価委員会による評価を実施。

原則としてヒアリングにより実施。研究が、類似の研究課題に継続される場合は書面により実施。

#### ② 評価の観点及び評価項目

評価の観点	評価項目	評価内容
目標達成	最終到達目標の達成度 (a、b、c)	研究計画で設定した最終到達目標の達成状況をみる。
有効性	研究成果の効果 (a、b、c)	研究成果の受益対象者の設定、成果の活用方法を踏まえ、研究成果の効果の評価する。
総合評価 (A、B、C)		最終到達目標の達成度、研究成果の効果から研究課題を総合的に評価する。

### (4) 総合評価の結果

評価結果	判定基準（項目評価の合計点）	課題数
A	6点	1課題
B	5～4点	6課題
C	3～2点	1課題
	合計	8課題

## (5) 評価結果一覧(事後評価)

評価基準日 令和5年4月1日

No	研究機関名	課題名	事業年度	ヒアリング 実施	目標 達成度	効果	総合 評価	資料
1	総合食品研究センター	微細気泡を利用した新食感食品の開発と応用	R2 ~ R4	○	c	b	C	資料6
2	総合食品研究センター	秋田の酒と食を結ぶ:科学的分析に基づく清酒ペアリング理論の基盤構築	R4 ~ R4	○	b	b	B	資料6
3	果樹試験場	ニホンナシ黒星病の総合防除法の確立	R2 ~ R4	○	b	a	B	資料6
4	林業研究研修センター	ニホンジカの個体数を制御するための生息環境の解明	H30 ~ R4	○	a	a	A	資料6
5	産業技術センター	電界砥粒制御技術を用いた新たな切断技術の開発	H30 ~ R4	○	b	b	B	資料6
6	産業技術センター	人工知能とVR技術の融合によるインテリジェント検査システムの開発	R2 ~ R4	○	b	b	B	資料6
7	産業技術センター	ファイラー高充填樹脂コンポジットの精密成形技術の開発	R2 ~ R4	○	b	b	B	資料6
8	産業技術センター	導電性を持つ次世代型多機能セラミックスの開発	R2 ~ R4	○	b	b	B	資料6

### 3 令和5年度研究課題評価内部評価委員会委員名簿

機関名	評価委員会 開催日	評価委員の所属・職名	氏 名	代理出席
総合 食品研究 センター	6月8日(木)	農業試験場 企画経営室長 食のあきた推進課 課長 食のあきた推進課 食品振興アドバイザー 総合食品研究センター 所長 総合食品研究センター 総務企画室長 総合食品研究センター 食品加工研究所長 総合食品研究センター 醸造試験場長	小松 修 黒澤 正弘 武田 三郎 柴田 靖 佐藤 功 戸松 誠 進藤 昌	
健康環境 センター	—	—	—	※R5対象課題なし
農業 試験場	6月7日(水)	農林政策課長 水田総合利用課 課長 農林水産部 参事(兼)園芸振興課 課長 農業試験場 場長 農業試験場 企画経営室長	佐藤 大祐 本郷 正史 草薨 郁雄 佐藤 孝夫 小松 修	
果樹 試験場	6月7日(水)	農林政策課 課長 農林水産部 参事(兼)園芸振興課 課長 果樹試験場 場長 果樹試験場 総務企画室長	佐藤 大祐 草薨 郁雄 瀬田川 守 船山 瑞樹	
畜産 試験場	6月7日(水)	農林政策課 スマート農業推進監 畜産振興課 課長 畜産試験場 場長 畜産試験場 総務企画室長	川本 朋彦 小棚木 栄作 畠山 英男 田中 篤	農林政策課長代理
水産振興 センター	※書面のみ	農林政策課 課長 水産漁港課 課長 水産振興センター 所長 水産振興センター 総務企画室長(兼)資源部長	佐藤 大祐 中林 信康 阿部 浩樹 三浦 信昭	
林業 研究研修 センター	6月7日(水)	農林政策課 スマート農業推進監 生活環境部 参事(兼)自然保護課 課長 林業木材産業課 課長 森林資源造成課 課長 林業研究研修センター 所長	川本 朋彦 齋藤 寿幸 齋藤 正喜 永井 秀樹 澤田 智志	農林政策課長代理
産業技術 センター	5月22日(月)	産業技術センター 所長 上級首席研究員(兼)部長 企画事業部長 先進プロセス開発部長 素形材開発部長 電子光応用開発部長 地域産業振興課長	齊藤 耕治 千葉 隆 菅原 靖 内田 富士夫 工藤 素 梁瀬 智 辻田 豊英	